

同 志 社 大 学

2011 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年 11月 24日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	助教	及川 昌典
研 究 題 目	無意識の獲得と変容：多重自動性モデルの提案	
研 究 成 果 の 概 要	<p>平成 23 年度は、意識的な決定と無意識の決定の違いや変化に着目した一連の検討が進められた。研究に先立ち、外部研究者（帝京大学、東洋大学、千葉大学、シラキュース大学、ユトレヒト大学）との協力体制の確認、予備的な調査、研究材料の開発などが行われた。また、国内の研究会、シンポジウム、ワークショップなどにおいて、数多くの領域の専門家たちからの意見を受けた。特に関西社会心理学会、日本心理学会、社会心理学会においては、これまでの研究成果および継続中の本研究をまとめたモデルに関する発表に対して、数多くのアドバイスを得た。今年度の主要な研究は以下のとおりである。</p> <p>1) 無意識の決定は意識的な決定と比較して認知的流暢性が高く、その誤帰属を通じたエージェンシー感覚も高くなるという仮説のもと、大学生参加者を対象とした調査（参加者 200 名）および 2 つの実験（それぞれ参加者 60 名）が実施された。また、その初期データの分析が行われた。これらの研究の成果の一部は、日本社会心理学会第 52 回大会で報告された。</p> <p>2) 自己概念の変革期における意識的な態度と無意識的な態度の経時的変化をとらえるために、産院の協力のもと、妊婦 20 名を対象とした中期的縦断調査が実施された。同様のインタビューは現在も継続中である。これらの成果は、平成 24 年度の研究に引き継がれる予定である。</p> <p>3) 言語報告に依存せず、状態変化に影響を受けにくい、新しい潜在指標の開発が進められた。この測定の妥当性を調べるための予備調査が千葉大学で行われた。</p>	